

営農技術情報

令和2年 6月25日発行

－畑作（春まき小麦④）－

上川農業改良普及センター名寄支所 Tel.01654-2-4524
JA道北なよろ Tel.01655-3-2521
JA道北なよろ営農センター Tel.01654-3-4307

～赤かび病防除のタイミングを逃さないこと！～

1 生育経過

止葉期は平年より3日早く、生育は、草丈、茎数いずれも平年並です。

＜生育状況（6月15日現在）＞

	止葉期	出穂始	出穂期	出穂揃	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
本年	6/10				52	876
平年	6/13	6/20	6/23	6/26	50	861
遅速	早3日	－			+2	+15

2 赤かび病防除 ～開花始とその後一週間おき2回の合計3回を徹底！～

- ・最も感染しやすい時期は、開花するときです。
- ・防除は、感染前の穂に薬剤を十分付着させることが重要です。
- ・開花は、出穂揃の4～5日後に始まりますが、好天が続くと早まります。
- ・防除適期に降雨が予想される場合は、降雨前に防除を行いましょう。

【防除体系例】（令和2年度JA農作物施肥・病虫害・雑草防除ガイドより）

散布時期		薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
1回目	開花始	シルバキュアフロアブル	2000倍	収穫7日前	2回
		または リベロ水和剤	2000倍	収穫7日前	3回
2回目	1回目の 1週間後	トップジンM水和剤	1000～1500倍	収穫14日前	出穂期以降2回
		または ベフトップジンフロアブル	800～1000倍	収穫14日前	出穂期以降1回
3回目	2回目の 1週間後	シルバキュアフロアブル	2000倍	収穫7日前	2回
		または リベロ水和剤	2000倍	収穫7日前	3回

3 葉面散布

例年タンパクが低いほ場では、尿素の葉面散布を行いましょう（尿素1～1.5%溶液を2～3回、赤かび病防除と同時散布）。

◎ 農薬は使用基準を守り、農薬飛散に注意しまししょう ◎